

Embraced by Great Compassion

龍谷大学文学部真宗学科

明圓院釋孝紀

杉岡孝紀教授 追悼の集いのご案内



日時 2024(令和6)年3月28日(木)午後2時～

場所 龍谷大学大宮学舎本館講堂

主催 龍谷大学真宗学教室教員一同

協力 龍谷大学文学部・農学部・大学院文学研究科

実践真宗学研究科 杉岡ゼミ 世界仏教文化研究センター



Embraced by Great Compassion

杉岡孝紀教授 追悼と謝辞

慈光照護のもと、ご精進の日々と拝察いたします。

とても悲しいことがございました。

文学部教授 杉岡孝紀先生が、令和6年2月24日(土)にご往生なさいました。

ここに真宗学の同朋として生前のご厚情に深く感謝申し上げます。

ご家族と岐阜県のご住職により杉岡先生のご葬儀が勤められました。喪主の杉岡享子様とお嬢様は、皆様への感謝と共に、悲しみの中で孝紀様の笑顔を思い起こす優しいお言葉を届けてくださいました。

入澤宗学長、本学教職員や有縁の方々にご参列いただき御礼申し上げます。玉木興慈文学部長には心温まる弔辞を賜りました。

つきましては、杉岡孝紀教授 追悼の集いを龍谷大学真宗学教室の主催により、杉岡ゼミの学生たちに協力をいただき開催させていただきました。

ご家族と教員と学生が共に、杉岡先生のご薫陶に感謝して、これまでの思い出を振り返り、尊いお姿を偲びたいと思います。

阿弥陀陀如来の還相回向のおはたらきにより、これからも杉岡先生に導かれながら、先生の真宗学の研究論文や言葉を学び直し、共に力をあわせて歩むことができればと思います。

南無阿弥陀佛

龍谷大学真宗学教室教員代表

鍋島 直樹

Embraced by Great Compassion

杉岡孝紀教授 追悼の集い

日時 2024(令和6)年3月28日(木) 午後2時より
場所 龍谷大学大宮学舎本館講堂・清和館
主催 龍谷大学真宗学教室教員一同
協力 龍谷大学文学部・農学部・大学院文学研究科
実践真宗学研究科・杉岡ゼミ

第一部 午後2時～ 受付 午後1時30分

追悼法要 大宮学舎本館講堂

司会 内田准心(龍谷大学文学部准教授)

内手弘太(龍谷大学文学部講師)

開会の辞 那須英勝(龍谷大学文学部教授)

追悼法要 『正信念仏偈』(行譜)和讃六首引

導師焼香 殿内恒(龍谷大学文学部教授)

結衆 鍋島・那須・玉木・井上善幸

参列者焼香 ご遺族ならびに参列者の皆様

法話 鍋島直樹(龍谷大学文学部教授)

記念品贈呈

龍谷大学真宗学教室教員一同

井上見淳(龍谷大学社会学部准教授)

能美潤史(龍谷大学法学部准教授)

『龍谷大学真宗学100年史』贈呈

龍谷大学真宗学会編集委員会

龍谷大学大学院・文学部杉岡ゼミ

ご遺族挨拶 喪主 杉岡享子様

Embraced by Great Compassion

第二部 午後3時～4時頃

追悼の集い 大宮学舎清和館 3階ホール

司会進行 先生方と杉岡ゼミ生たち

お菓子と温かいお茶をいただきながら

想いを分ち合う時をもちたいと考えております。

※追悼の集い参加費無料

※追悼法要に、杉岡先生と有縁の方々は自由にご参加ください。

※ご家族様のご意向により、ご香資はご遠慮させていただきます。

杉岡孝紀教授 専門 真宗教義学 メタファー 真宗他者論 cf. research map

【学歴】

1988年 龍谷大学文学部仏教学科真宗学専攻卒業

1993年 龍谷大学大学院文学研究科真宗学専攻博士後期課程満期退学

【学位】 博士(文学) 学位論文「親鸞の解釈と方法」2016年2月9日

【職歴】

1993年 - 1996年 龍谷大学 非常勤講師

1994年 - 1996年 相愛大学 非常勤講師

1997年 - 1998年 龍谷大学文学部 特定講師

1999年 - 2003年 龍谷大学文学部 専任講師

2004年 - 2009年 龍谷大学文学部 助教授・准教授

2010年 - 2015年 龍谷大学文学部 教授

2015年 - 2020年 龍谷大学農学部植物生命科学科 教授

2020年 - 2024年 龍谷大学文学部真宗学科 教授

2022年 - 2024年 龍谷大学大学院実践真宗学研究科 科長補佐 教務

龍谷大学世界仏教文化研究センター 副センター長

Embraced by Great Compassion



気仙沼市での追悼法話 2016年6月4日 実践真宗学研究科東北被災地研修

【単著】

・『親鸞の解釈と方法』法蔵館 2011年8月

【共編著】

・岡亮二編『教行信証』に問う(六角会館研究シリーズI)』(「南無阿弥陀仏の解釈」(105-130頁))永田文昌堂 2000年4月

・矢田了章編『龍谷大学善本叢書 21 三帖和讃』(「文献資料比較表」、669-743頁)同朋舎 2001年3月

・(共著)鍋島直樹他『心の病と宗教性—深い傾聴—』法蔵館 2008年10月

・鍋島直樹他編『心の病と宗教性—深い傾聴—(人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター研究叢書8)』(「親鸞における「海」のメタファー」(232-243頁))法蔵館 2008年10月

・大田利生編『龍谷大学善本叢書 27 選択本願念仏集(延書)』(解説論文(651-670頁))永田文昌堂 2009年3月

Embraced by Great Compassion

- ・釈徹宗他『親鸞 浄土真宗の原点を知る (KAWADE 道の手帖)』(分担執筆)河出書房新社 2011年12月
- ・高田信良編『宗教における死生観と超越(人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター研究叢書)』(「自己」「非自己」と「内」「外」の区別—免疫学的「自己」を考える—(171-189頁))方丈堂 2013年3月
- ・川添泰信編『龍谷大学善本叢書 32 選擇註解鈔』(解説論文(599-613頁))永田文昌堂 2016年3月
- ・川添泰信編『親鸞と浄土仏教の基礎的研究』(第二部親鸞思想関係「西田哲学と親鸞思想—西田幾多郎の宗教的関心と悲哀—」)永田文昌堂 2017年12月【研究論文(査読有)】
- ・「三願転入と実存の三段階」印度学仏教学研究 40(1) 1991年
- ・「「今」と「久しく」」印度学仏教学研究 41(1) 1992年
- ・「『教行信証』序の一考察」真宗学 (88) 1993年
- ・「『顕浄土真実教行証文類』後序について」宗教研究 66(4) 1993年
- ・「宗教体験と時：親鸞と弘願転入の時期を中心として」龍谷大学大学院研究紀要人文科学 14 1993年
- ・「三願転入の問題」印度学仏教学研究 43(1) 1994年
- ・「安楽集における念仏思想の一考察」真宗学 (96) 1997年
- ・「親鸞聖教の解釈学的研究のための一試論—『歎異抄』の教説を手がかりとして—」真宗学 (97・98 合併号) 1998年
- ・「『教行信証』論考序説」印度学仏教学研究 46(2) 1998年
- ・「『教行信証』の解釈学的研究」真宗研究 (43) 1999年
- ・「顕真実の意義」龍谷大学論集 454(454) 1999年
- ・「親鸞における顕真実教の解釈」真宗学 (99・100 合併号) 1999年
- ・「親鸞における言葉—解釈学的研究の基本的視座—」真宗学 (101) 2000年

Embraced by Great Compassion

・「六字釈の一考察—岡亮二師の所説を縁として—」真宗学 (105・106 合併号)

2002 年

・「親鸞における自然 (佛教と自然)」日本仏教学会年報 (68) 2003 年

・「親鸞における光の解釈」龍谷大学論文集 (463) 2004 年

・「「自然」概念の再検討」真宗学 (109・110 合併号) 2004 年

・「親鸞における「海」のメタファー」真宗学 (111) 2005 年

・”Metaphors in Shinran” 真宗学 (117) 2008 年

・「親鸞の宗教体験と表現(上)—いわゆる三願転入の意義—」真宗学 (119・120 合併号) 2009 年

・「メタファーとモデルと方便の意義」真宗研究 54(54) 2010 年

・「親鸞の宗教体験と表現(中)—三願転入の時期をめぐる諸問題—」龍谷大学論文集 (474・475 合併号) 2010 年

・「宗教体験としての二河白道の譬喩」真宗学 (123) 2011 年

・「真宗他者論(1)実践真宗学の原理としての〈他者〉」真宗学 (129) 2014 年

・「西田哲学と親鸞思想(1)—西田幾多郎の宗教的関心と悲哀—」親鸞と浄土仏教の基礎的研究 2017 年 12 月

・「西田哲学と親鸞思想(2)純粹経験の多義性について」真宗学(135) 2017 年

・「西田哲学と親鸞思想(3)場所的論理と〈仏—衆生〉の関係論」真宗学(137)

2018 年

・「一宗学徒の真宗学研究への思い」龍谷大学真宗学会編『龍谷大学真宗学100年史』127~138 頁 永田文昌堂 2024 年

・「空間のメタファー—親鸞における内外のメタファー—」龍谷大学真宗学会編『龍谷大学真宗学100年史』337~348 頁 永田文昌堂 2024 年

・「存覚における逆謗摂取の理解について—親鸞からの展開を考える—」世界仏教文化研究論叢 62 集 2024 年

Embraced by Great Compassion

弔 辞

龍谷大学文学部教授 杉岡孝紀先生のご往生にあたり、龍谷大学文学部を代表して、謹んで弔辞を申し述べます。

先生は、1993年、龍谷大学大学院文学研究科を修了後、龍谷大学・相愛大学非常勤講師を経て、1997年龍谷大学文学部特定講師として奉職され、専任講師、助教授・准教授を経て、2010年には教授に昇任されました。2015年から5年間は、龍谷大学に新設された農学部植物生命科学科教授として勤められ、2020年からは再び、文学部教授としてお勤めくださいました。

顧みれば、学生時代を併せると40年、龍谷大学人として過ごされる中、真宗学の教学の充実、並びに学生・大学院生への熱意あふれるご指導により有為な多くの人びと、研究者、寺院住職を育成されました。まことに感謝にたえないところであります。

また、先生はその豊富な学識と深い見識をもって、文学部教務主任をはじめ、極めて多くの要職を歴任されました。大宮学舎・深草学舎・瀬田学舎で研究室を構えられた先生は、大学の充実と発展に寄与してこられました。先生の優しい言葉に、励まされた事務職員も多くいると思います。

私が龍谷大学に勤めて間もない頃、真宗学科の先生方と会議をしている最中でした。岐阜の御自坊におられたお母さまから、会議室にお電話がありました。受話器を置かれた後、私たちに向かって、落ち着いた声で、「父が亡くなりました」とだけ告げて、急いでご実家に向かわれました。

その後、ご住職となられてからは、御自坊の法務を大学院生に手

Embraced by Great Compassion

伝ってもらったり、ゼミ生に法要の講師を依頼するなど、大学外においても、学生に学びの場を設けておられました。真宗学を学ぶ者は、解学・行学一致でなければならないと真摯な求道・学道を歩まれ、学生にもそれを説き続けられました。お聖教の拝読が、知的な究明にのみ終始してはいけないというご信念があり、真宗を学ぶ者は、その生き方と深く関わることをお教えてくださいました。

そして、何よりも先生のご専門である真宗学におけるご業績については、龍谷大学真宗学会に軸足を置きつつ、大谷大学真宗学会や京都宗教哲学学会でのご講演やご発表を始め、宗教倫理学会・日本宗教学会・日本臨床宗教師会などで理事・評議員を務めるなど、研究分野も広く、浅野教信先生・川添泰信先生から引き継がれた善本叢書の刊行などにもご尽力くださいました。なかでも学位論文である『親鸞の解釈と方法』において、新しい研究成果を多く提示してくださいました。

先生の真宗学の学びの始まりは、3回生の頃のゼミの時であったと聞いたことがあります。恩師岡亮二先生のゼミで初めての発表を終えた後、あの厳しい岡先生が「君の発表、面白い発表だった」とおっしゃったのが、今から思えば研究のスタートだったとおっしゃっておられたことが印象に残っています。その岡先生の教学や学問の姿勢について記された「一宗学徒の真宗学研究への思い」が杉岡先生の晩年の御論考になるとは思いもしませんでした。龍谷大学真宗学会は100周年を迎えましたが、先生の「空間のメタファー～親鸞における内外のメタファー～」がその記念出版に収められております。また100周年を記念して、【これからの親鸞研究に向かって】と題した記念連続講演会を企画し、先生ご自身もご講演くださいました。今から思えば、

Embraced by Great Compassion

まさに、命を削りながら、真宗学の今後を案じておられたのだらうと思います。

先月 1 月 25 日に先生の研究室の番号から私の携帯にお電話がありました。その日が先生の大宮学舎での最後の一日になったのかと思います。その日から数えて一ヶ月、2 月 24 日に「杉岡がお浄土に参りました」と奥さまからご連絡がありました。

今、在りし日の温顔を想い起こせば、先生からお念仏の教えについて多くのご教示を賜りました。議論が停滞しているときや、あらぬ方向に話が進みがちな時に、静かに、しかし適確にご発言いただき、確かな方向を示してくださいました。改めて深い感謝と敬意と追慕の念を覚えることです。先生の卓越された指導力が今日こそ必要とされていると、一層その念を強くすることです。

人生において、師に遇いがたく、教えの受けがたいことを悲嘆のなかに見つめながら、後に残された私たちは、先生のお示しくございました厳しくも、また尊いおさとし・お姿を心にとどめ、ご精進のみ跡を受け継いでまいりたいと存じます。

ここに先生ご在世中のご業績を讃え、その深重の学恩に感謝しつつ、さらにお浄土からの還相摂化のはたらきを願い、私たち無辺の群萌をお導きいただきたいと希いつつ、謹んで先生を偲ぶ言葉といたします。

2024(令和6)年2月27日

龍谷大学

文学部長 玉木興慈

Embraced by Great Compassion

杉岡孝紀先生 ご家族様

教職員、学生達が杉岡先生に勇気づけられたと話してくれます。

龍谷大学からの帰り道をよく杉岡先生とご一緒いたしました。

ご家族への感謝をいつもお話になっておられました。今頃になって先生の論文を読んで感動しています。いまは龍谷大学も帰り道も寂しくなりました。ちゃんと論文を読みますので、これからも笑顔でどうかお導き下さい。

私たち 除かれる者 弥陀にゆだね 南無阿弥陀佛 南無阿弥陀佛

龍谷大学真宗学教室教員代表

鍋島 直樹 拜

